
平行世界を巡る（仮）

平民

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平行世界を巡る（仮）

【Nコード】

N7205Z

【作者名】

平民

【あらすじ】

この物語は一般人の主人公の日常が非日常に変わり、その中でどのように生きていくかの話です。

注意このことはフィクションであり、実在する物とは一切関係ありません

注意書き（前書き）

22時に書いたのもうこんな時間だよ

注意書き

この物語を読むための注意点があります。

- 1 この作品は作者が中学生のときに考えていたものであり、最近思い出しどんなものだったかを整理するための自己満足的物語です。
- 2 上に書いた通り厨二病全開のぐだぐだな物語になります。なので嫌な方は戻るボタンを押すなりブラウザを閉じてください。
- 3 更新は毎日を目指しますが忙しいときは2日〜7日かかるかもしれません。

この3つの注意点を見てそれでもいい！という方のみ先に進んでください。

注意書き（後書き）

後悔も反省もしている

プロローグ（前書き）

やはり反省も後悔もしている

プロローグ

また新しい朝が来た。俺は目覚まし時計を止めて布団からでて朝食を食べるためリビングに行く。

眠い。かなり眠い。昨日遅くまでゲームをやっていたからか？そう思いながらリビングまで進んでいく

「おはよう」

「おはよう」

挨拶をしてきたのは母である。俺は自分の席に行き朝食のトーストと目玉焼きを食べる 食べる

「ごちそうさま」

そついい歯ブラシをとりに行くさつさと歯磨き粉をつけ歯を磨く。なぜ、歯を磨くのか思いながら磨く面倒になってみたのですぐにゆすぐ。寝癖をとるのを忘れずに。

「行つてきます」

そついい学校へ行く。学校までは10分ほどで着く。その間にこの前見ていたネット小説を思い出す。

たしかアニメを題にした転生物である。 まあ、現実では起きないことなので軽く読んでいた。しかし、非現実的だから面白く感じるものであり現実だったらヘタレでチキンな俺は逃げるに違いない、そう思う。そんなことを考えると学校に着くいつもと同じような時間に着き教室に着く。

「起立。礼。着席。」

その号令で今日の学校は終わりだ。授業はつまらないので飛ばした。このような平々凡々な日常を14年繰り返してきた。やはり、家に帰りさつさと宿題を終わらせパソコンの電源をいれネット小説を見るやはり転生物である。

「寝るか」

そうつぶやき電気を消し就寝する。また、同じことの繰り返しだ。だからこう思いこうつぶやいた

「この日常がフィクションのようになればなあ」

しかし、俺はこの独り言を後悔した。

なぜなら……

あのようなことが起こるとはおもわなかったからだ。

プロローグ（後書き）

かなり短いし、恥ずかしいです

第一話 日常の崩壊（前書き）

作者の妄想なので軽く流してもらえるとありがたいです

第一話 日常の崩壊

また新しい朝が来た。俺は目覚まし時計を止めて布団からでて朝食を食べるためリビングに行く。

眠い。かなり眠い。昨日遅くまでゲームをやっていたからか？そう思いながらリビングまで進んでいく

「おはよう」

「おはよう」

挨拶をしてきたのは母である。俺は自分の席に行き朝食のトーストにジャムを塗ったものを食べる

「ごちそうさま」

そついい歯ブラシをとりに行くさつさと歯磨き粉をつけ歯を磨く。

「いつてきます。」

そついい学校へ行く。やはり昨日と変わらない日常だ。

変わらない毎日に少し残念な気もするが、これは仕方がないことだ。

「おはよう。」

「おう。」

そつ返事をしてくれたのは、俺は友達と思っている倉内だ。

「なあ、宿題やってきたか？やってきたら少し見せてくれねえ？」

俺は無言でノートを渡す。

「サンキュー。」

そついい自分の席に戻る倉内、さてと朝の会が始まるまで寝ようかな？

「はい……席についてください……」

？なぜあんなに先生の顔が青いというか汗をかいているんだ？そう思うと

全身黒いコートのような服で身を包んでいた人が入ってきた

「さてと……今からゲームを始めよう！」

は？ゲーム？何だよゲームって？そう思うとクラスの一人の石田が

「何がゲームだよ！！ふざけるんじゃない！！」

そつ怒鳴った。なぜか先生は黙ってうつむいている。そうすると

「黙れ。」

そついい黒コートの男？は銃を取り出す。そして……

引き金を引き

石田の頭を打ち抜いた……

「う………うわあああああ」

そう誰かが叫んだ。隣の席の山府だっけ？そいつが狂ったように叫び、そのほかのクラスの人は吐いたり、気絶したり、叫んでいる。俺は寝ぼけていた。だからこれは悪い夢だと思っていた。そう悪い夢だ

そう思って現実から目をそむけようとしたら

「静かにしろ！！」

そう黒コートの男が言う

「これは現実だ！これが悪い夢だと思っっているやつもいるんだろうがこれは夢じゃない！！現実だ！今からゲームを行うための説明の邪魔をするからこうなる！」

そう言い石田を指差す

「こいつのようになりたくなっかたら静かにしろ！」

そういうとクラスのやつは黙った

「よし。これからゲームの説明をするために体育館に行ってもらった。分かったな。」

そう男が言い終わると我先にとドアを開けていこうとする。俺も最後のほうについていく。

「体育館」

「これからゲームを始めようと思う！！ゲームの参加者はこの学校にいる生徒と教師たちだ！ルールを説明する！ひとつこれから行われるのはバトルロワイアルすなわち殺し合いだ！」

ざわざわと体育館に集まった人たちがざわめき始める。そんなことお構いなしに話を進める

「ふたつ！これが終わるのは最後に一人生き残るまでだ！もしも生き残れたなら何でも願いをかなえてやろう！」

なるほど。そう何故か冷静なまま話を聞いている。

「みつっ！共同戦線を張ろうが同盟を組もうがかまわない！ただし最後の一人になるまでゲームは終わらないがな。」

同盟を組んだり戦線を張っても意味がないだろうに、なぜなら最後まで生き残れるのは一人なのだから

「以上だ！質問のあるやつは手を上げてみる。」

そついうとこの学校の生徒会長が

「このまま戦う物なしに殺し合いしろというのか？」

「安心しろ。道具なら今からクラスごとにでくじを引かせてやる。」

「この学校には四百人近い人たちがいるんですよ？そんな数用意できてるんですか？」

「できるからやれと言っているんだろう！道具はたくさんあるぞ？同じもので数種類あるものとかひとつしかないものとかお前らの知っているアニメなどの物まであるぞ。」

そういわれると、クラスにいるアニメや漫画好きの人が小声で「やった」とか「これで生き残れる！」とか口々に言っている。

「他にはいないのか？よしそこのお前。」

「このことは国や政府は知っているんですか？」

「ああ、今日のニュースで見ただろう？政府が脅迫を受けたことをそれだからこのことは大丈夫だ。さらに他の学校でもやっているかな。」

嘘だ・・・と呟きその生徒は座った。そりゃ、死刑宣告をされたようなものだからな

「話は以上だ！各自教室に戻り細かい説明や道具を受け取れ！」

そついい終わると他の生徒は思い足取りで進んでいった。

第一話 日常の崩壊（後書き）

駄文ですみません

第二話 下準備（前書き）

基本地の文は主人公視点です

第二話 下準備

体育館から戻ってきた俺たちはクラスに戻ってきた。

「今から生き残るための道具をやる。出席番号順に来い。」

そう黒コートの男が言々と次々にくじを引いていく

「次。」

俺の番が来た。すごい緊張しているのが自分でも分かる。心臓が早鐘のようになり、手汗が異常なほど出ている。俺はくじの入った箱からくじを引いた。37番だ。なぜ誕生日なのか分からなかった。

そして次々に引き、終わると

「さあ廊下に行き自分の番号の物の中身を確認するんだ。まずは一番を引いたやつからだ。」

そのまま次々に前のドアから出て行き後ろのドアから入ってきた。その顔はうれしそうなやつとがっかりしたやつ、この世の終わりだという顔をしていくやつだ。

「37番！」

そういわれ廊下に行き箱を受け取る・・・二つも。俺が不思議そうな顔をするとその箱が動いた。

がさごと揺れたのだ。二つとも俺は驚き落としかけた。危ない、危険物だったらどうしようかと思った。

「よしこれでこのクラス39人に行き渡ったな。死んだやつは道具はこちらで回収しよう。少しの時間をやるからその間に中身を確認しておけ。」

そういわれたのでみんながあけ始める。俺も二つ開けた。中からでてきたのは

一匹の狼みたいな小さい獣と一匹のこれも小さい鳥だった

第二話 下準備（後書き）

このままさくさく進めていききたいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7205z/>

平行世界を巡る（仮）

2011年12月25日16時51分発行